

北支那方面軍第一兵站病院長 陸軍衛生上等兵 丸山清市

式登所書

（據寄二部）發給 丸山清市

陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

一 陸軍衛生上等兵 丸山清市 實登所書

式登所書

死亡證書

第六十二師團野戰病院

陸軍衛生上等兵 丸山清市

右昭和十九年七月四日 中華民國河南省鄭縣

二 於脚氣(衝心性)兼感冒 罹り 第六十二師團

野戰病院第二部 入院 七月八日 鄭州北支那

方面軍第一兵站病院 轉入加療中 遂脚氣(衝心性)

兼感冒 由本日前 一時 分死亡 又

昭和十九年七月十二日

北支那方面軍第一兵站病院長

永島 成



27

付	部	任	主	官副級高	長謀参	長團師
水村		吉				

第六十二團團長海軍少将 齋 實

昭和十九年七月廿一日

一、賞状

支隊二部隊二員ノ首領與金ハ支給シテモサレ
 二隊大東亞輝煌ニ浴スルニ致シテ其功績金賜與
 式者ニ推入シ師団十七年一月二十日師団自出シテ

賞状各紙ノ封筒ニ封入シテ
 本師団長官ニ送付ス

本師団長官ニ送付ス
 本師団長官ニ送付ス

賞状與金賞状書

中部三恩 第四三九號

恩賞関係書類ニ関スル件回答

中部第三十八部隊

昭和十九年七月廿一日

石第一八八二部隊御中

昭和十九年十月七日附石師団人恩第二四四號ニ依リ照會相成タル
 首題ノ件當隊ニ於テ既ニ受領セルニ付回答ス

追テ石川銓夫以下拾名分ノ特別賜金、扶助料進達手續
 齊ニ付爲念申添フ

十九年十月七日附石師団人恩第二四四號
 此和十九年十月七日附石師団人恩第二四四號ノ首題ノ件ニ於テ是等ノ事ハ他ノ部ニ
 照會由係書類ヲ河南局新設作戦地域ニ送付セルニ付既ニ於テ之ヲ受領ス
 受領シテ之ヲ照會ニ送付セル事

第三十八部隊

一發病年月日 昭和十九年五月三十日
 一發病場所 中華民國河南省洛陽縣花子砦
 一發病狀 流名

昭和十九年三月九日第六十二師團野戰病院へ轉屬ノ
 爲滿洲國黑河省瑗瑯縣神武屯出發長途列車輸送
 二依リ三月十四日中華民國內西省榆次ニ到着シ野戰病院
 二編入セラレ次期作戰ヲ目前ニ控ヘ猛烈ナル教育訓練ヲ
 受クルト共ニ同地附近ノ警備或ハ作戰準備ノ屬諸種ノ
 勤務ニ取シ亦列車輸送間ニヤリテハ狹隘ナル貨車内ニ
 下リテ警戒勤務ニ或ハ停車場衛兵等ニ服務シ克ク其
 ノ任ヲ完シテ四月二十日部隊ハ愈々全般ニ直ノ攻撃
 ヲ開始シ連日ニ亘ル強行軍ヲ以ツテ廣莫タル河南平野ヲ
 或ハ峻險ナル大雄山ニ露破シ凡レ困苦缺乏ニ堪ヘ克
 ク其ノ本分ヲ全クシテ五月二十日ニ到ルルニ至リ

怠食思不振惡意發熱及頭痛下リタルヲ以ツテ五月三十一日
 受診ス

右原因ヲ探究スルニ本人ハ頗ル健康體ニシテ認ムベキ既往
 症ナク萬事積極的ニ勵行シ作戰準備間ニ於ケル繁激ナ
 ル諸勤務及京漢作戰參加以來不眠不休猛進擊或
 ハ峻險ナル山岳地帯ノ行動等ニ依ル疲勞ノ蓄積及宿
 營地ニ於ケル非衛生的環境即水質不良及南京虫
 等ニ依ル睡眠不足現地調辨ニ依ル給養ノ不適正等及
 氣候風土ノ激變等ノ感作ニ因リ遂ニ該病ニ罹患セルモ
 一ニシテ眞ニ公務ニ起因セルモノト認ム

右證明ス
 昭和十九年五月三十一日
 第六十二師團野戰病院院長 陸軍醫官佐熊倉 實人

病歷書

本籍地
現住所

第六十二師團野戰病院

昭和十六年徵集

陸軍上等兵

小松

操

- 一病
- 二發病年月日
- 三發病場所
- 四原因
- 五經過

名

回歸熱兼榮養失調症

年月日

昭和十九年五月三十日

場所

中華民國河南省洛陽縣花子塔

原因

別紙事實證明書記載ノ如シ

經過

本症ハ今次京漢作戰參加行動中 昭和十九年五月三十日頃
ヨリ全身ノ倦怠 食思不振 惡感發熱 及頭痛アリタルヲ以テ翌
年可受診部隊ト共行動スル能ハズ 六月二日第一四〇尖站病院
入院ス 入院時體格中等度ナルモ榮養衰ヘ體温三九〇度
脈搏一〇五至 咽頭粘膜炎發赤シ 舌乾燥 白苔ヲ衣シ 胸部ニ異

常ヲ認メズ腹部舟狀ニ陷回ス腹壁稍緊張ス上腹部及下
腹部ニ輕度ノ圧痛アリ膝蓋腹反射正常便通一日五―六行
ナルモ收容上ノ都合ニ依リ六月十四日北支那方面軍第一兵站病
院ニ轉入ス

當時體温三八・五度脈搏九八至體格中等度榮養衰へ顔
貌憔悴シ稍々浮腫狀舌乾燥シ厚キ白苔ヲ衣ス心界正常
心音純第二肺動脈音亢進ス右肩胛間中央以下濁音
聲振反呼吸音稍々強盛腹部平坦柔軟圧痛アリ足背浮
腫ヲ認ム眼球結膜黃疸色稍々充血ス便通一日四―五行アリ
依然病勢ニ大差ナキモ全身ノ衰弱次第ニ加ハル六月二十六日
ニ至リ體温三八・八度脈搏九五ヲ算シ整ナレドモ微弱ナリ
結代ヲ認メズ皮膚黃染乾燥ス腹部柔軟ナルモ陷没
シ肝脾ヲ觸レズ足背浮腫アリ全身倦怠甚シク食思缺
乏シ氣力全ク衰へ余後樂觀ヲ許サザルヲ以テ六月二十六日
十三時第一報ヲ發シ強心劑皮下注射並ニ高張糖液

心タミシニB液リシゲル液等ノ靜脈注射ヲ行ヒ心カノ保持榮養
ノ補給ニ努メタルモ病勢輕快ノ微ナク翌二十七日食思全ク
進マズ嘔氣嘔吐下リ尚一日四―五行ノ粘液ヲ混セル少量ノ
下痢便アリ血液膿等ノ混入ヲ認メザルモ全身ノ衰弱甚
シク二十八月朝來惡寒ヲ伴ヒテ發熱體温三九・五度ニ達
シ意識稍々不明瞭トナリ榮養氣力全ク衰へ眼窩陷
凹シ鼻梁隆起シ顔色黃疸色ヲ呈シ口腔乾燥舌厚褐色
ノ苔ヲ衣ス肺域正常腹部肝一橫指ヲ觸レ輕度ノ壓痛
アリ脾觸レズ左下腹部「グ」音壓痛アリ足背浮腫益々穿
度ナク激シキ頭痛口渴嘔氣嘔吐アリ同日血液中心ヨリ回
歸熱スピロヘタ―ヲ證明セルモ全身症狀ハサルハルサ注射
ヲ行フ能ハズ二十九日ニ至リ體力氣力頓ニ衰へ終日假眠狀
態ヲ續ク體温三八・八度脈搏一〇〇至ナルモ微弱ニシテ結代
ヲ認ム肺域呼吸音粗雜トナリ手指及顔面ニ輕度浮
腫ヲ認ム血壓最高八八―最低六五耗便通一日五―六行
水様下痢便ヲ失禁スルニ至ル以上ノ如ク諸症狀ヨリシテ濃

後不良ヲ思ハシメ三十日七時三十分第二報ヲ發シ同日
以上ノ所見並ニ血液検査成績ヨリ病名ヲ回歸熱兼榮
養失調症ト決定シ強心劑高張糖液リンドル液等ヲ注射
ヲ行ヒ專心看護ニ努メタルモ更ニ其ノ効空ニク次第ニ意
識朦朧トナリ脈搏頻數微弱トナリ結代ヲ認セリ
三十分頃ニ至リ意識全ク濁濁シ下頸呼吸ヲ營ミ瞳孔散
大ニ對光反應消失シ十一時五十分遂ニ鬼籍ニ入ル
△六死亡年月日 昭和十九年六月三十日
△七死亡場所 中華民國河南省鄭州北支那方面軍第一兵
站病院

右ノ通ニ候也
昭和十九年七月一日
北支那方面軍第一兵站病院附陸軍軍醫少尉大河内 寛

三台
昭和十九年七月一日
新止

本籍地
現在所

本患二十年七月十日死ニシテ死因不明ニシテ
病歴書ノ死之年日ヨリ推シテ昭和十九年六月三十日トシテ
小松 操

- 一決定年月日 昭和十九年六月三十日
- 一公務起因 本病ハ別紙所屬部隊長調製率實證
タル理由 明書記載ハ勤務ニ因リ發病セルモノト認ム

右證明ス

昭和十九年六月三十日
北支那方面軍第一兵站病院長 陸軍軍醫少佐 永嶋 成春

後不良ヲ思ハシメ三十日七時三十分第二報ヲ發シ同日
 以上ノ所見並ニ血液検査成績ヨリ病名ヲ回歸熱兼榮
 養失調症ト決定シ強心劑高張糖液リンドル液等ヲ注射
 ヲ行ヒ專心看護ニ努メタルモ更ニ其ノ効空シク次第ニ意
 識朦朧トナリ脈搏頻數微弱トナリ結代ヲ認メ七時
 三十分頃ニ至リ意識全ク瀕濁シ下頸呼吸ヲ營ミ瞳孔散
 大ニ對光反應消失シ十一時五十分遂ニ鬼籍ニ入ル
 △六死七年月日 昭和十九年六月三十日
 ×死亡場所 中華民國河南省鄭州北支那方面軍第一兵
 站病院

右ノ通ニ候也
 昭和十九年七月一日
 北支那方面軍第一兵站病院附陸軍軍醫少尉大河内 寛

證明書

本籍地
 現住所

第六十二師團野戰病院

昭和十六年徵集 陸軍上等兵 小松 操

病名 榮養失調症 兼 回歸熱

一決定年月日 昭和十九年六月三十日

一公務起因 本病ハ別紙所屬部隊長調製事實證明書記載ノ勤務ニ因リ發病セルモノト認ム

右證明ス

昭和十九年六月三十日
 北支那方面軍第一兵站病院長 陸軍軍醫少佐 永嶋 成春

支那方面軍第一兵站病院長 陸軍少將 永島成春
昭和十九年六月三十日

式證取入

一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春
一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春

一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春
一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春

一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春
一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春

一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春
一、公證理由 陸軍少將 永島成春 陸軍少將 永島成春

式證取入

死亡證書

第六十二師團野戰病院

陸軍上等兵 小松 操

右昭和十九年五月三十日中華民國河南省洛陽縣莊子莊二於三回歸熱兼柴榮養失調症二罹一爾後第四百十兵站病院二入院六月十四日鄭州北支那方面軍第一兵站病院二轉入加療中遂二回歸熱兼柴榮養失調症二由一本日午前十一時五十分死亡又

昭和十九年七月一日
北支那方面軍第一兵站病院長 永島成春



大文部大臣軍部第一大臣
昭和十七年七月一日

然兼榮養夫... 由... 本... 前... 一... 五... 十... 分...
支隊... 軍... 第一... 兵... 隊... 第一... 轉... 入... 隊... 中... 遂... 回... 報...
爾... 榮... 養... 夫... 隨... 武... 隊... 中... 遂... 回... 報...
式... 榮... 養... 夫... 隨... 武... 隊... 中... 遂... 回... 報...
式... 榮... 養... 夫... 隨... 武... 隊... 中... 遂... 回... 報...

第六十二師團野戰病院

第七號書

諸給與金證明書

本籍地
現在所

所屬部隊 第六十二師團野戰病院

官氏名 陸軍上等兵

小松

操

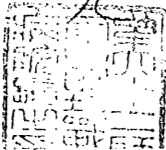
右者ニ對スル昭和十七年一月三十一日陸軍省告示第一號大
東亞戰役ニ係ル死没者特別賜金賜與規定第二條
第三項ノ請給與金ハ支給シテラザルコトヲ證明ス

昭和十七年七月一日

第六十二師團野戰病院長

熊倉

寛



丸字

漢字

第六十二師團 陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍省

陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省

陸軍部 陸軍大臣 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省

陸軍部 陸軍大臣 陸軍省

控

起案用紙

發翰番號	石部列人部第18號	昭和20年3月7日起案	月	日發送	發送者
師團長	參謀長	參謀	副官	部長	連帶者
主任					
宛名	石部五三五部隊中	發翰者	石部一八八部隊		
件名	恩賞閣僚事務中一初訂正件一通牒				
三月五日、石五三五恩賞第一八號、依陸軍省上第百小松操姓名					
二部、石部恩賞事務中、左記、如下一部、不帶、石部五三五					
件訂正、上再提出相成一通牒、不					
左記					
一、小松上筆矢					

陸軍部

付	每	任主	官副級高	長謀參	長團師

一 階 年
 病歴書、死之年月日は昭和十九年六月三十日に記載あり
 之經過欄に死に所書に記載あり七月一日カ乙乙中三ノト
 思料 七ノハニ仕訂ニラ要ス

戸師副人見第ニ八四號

恩賞關係係書類送付ノ件通牒

昭和二十年三月九日

第六十二師團司令部

京都聯隊區司令部 御中

昭和十九年京聯恩傷ハ第二九號ヲ以テ照會ニ係ル左記者ニ
 對シ首題ノ別紙ニ通送付ス

左記

陸軍一等兵

廣 瀬 清 藏

以テ其難難征途ニキ長途列車輸送及船舶輸送ニ依リ陽泉到着スル
ルヤ全身違和感 頭痛 嘔吐 發汗 腫脹 障碍ヲ許シ受診ス
石ノ生來頑健ニシテ入隊シテハ血族の關係ニ於テ濃厚ナル結核感染
ノ機會アリシモ既往症ニ於テ結核性疾患ヲ認メス 入隊時細密身體検査
ノ結果何等認ムヘキモノナク第一線部隊ニ即應シ得ル如ク繁激ナル教育訓
練ニ從事シ渡支ヨ目前ニ控エテノ教育トテ積雪中行軍或ハ夜半ニ及ブ過
劇ナル演習 鹿窟番 不審番等ニ專念スル傍出撃準備ニ忙殺サレ疲
勞ノ癒スル暇ナク愈々征途ニ依リ列車輸送ニ依リ下關ニ到着スルヤ寒サ嚴
シキ中卒先隊屬貨物ノ卸下 荷物監視歩哨 對空警戒等ニ任シ亦乘
船ニ際シテハ本人ハ積局的ニ荷物ノ搭載ニ從事シ疲勞ミルヘキモノアリ
出帆スルヤ兵員滿載セル狹隘ナル船艙内ハ(二坪名)換氣採光不充分ニシテ採暖
設備全クナク横臥スルヲ得ス其間持本人ハ頑強ナル為風浪持ニ荒ク動搖激
シキ甲板ニ在リテ對空對潛警戒歩哨ニ服シ釜山ニ上陸スルヤ氣候風土ニ變ル
肥ニ在リテ寒氣一入身ニ必ズ短時間ニ於ル荷物ノ卸下貨物列車ノ搭載等夜

半迄從事シ出發スルヤ有蓋貨車ハ極ク狹隘ニシテ四五名ヲ收容シ半重リ
途ノ程度ニシテ本人ハ列車衛兵ニ任セサレ長途輸送間モ軍裝ノ解クコトナク
列車進行ニ伴ヒ敗殘兵等出沒シアリテ之ニ應スヘク訓練等屢々實施セラ
レタリ亦停車場停止間ニ在リテハ酷寒ヲ冒シ馴レサル處ニ在リテ警戒歩哨
ニ在リ列車内ハ採暖設備全クナク毛布一板トテナキ状態ニシテ給與ハ輸送
間トテ充分ナズ列車運行順調ナラサルタメ混食給與モ得ラレサル狀況ナリキ
前記諸勤務ト非衛生的環境ノタメ疲勞累積シ諸病對スル抵抗力
減弱シ遂ニ病魔ニ侵ストコロトナリ發症セルモノニシテ眞ニ公務ニ起因セルモノ
ト認ム

右證明ス

昭和十八年三月十日

獨立混成第四旅團砲兵隊長

陸軍中佐

春日

靜

獨立混成第四旅團砲兵隊附

陸軍中尉

小松三郎